

公表

事業所における自己評価総括表(児童発達支援・放課後等デイサービス共通)

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスつみき			
○保護者評価実施期間	令和8年8月1日		～	令和8年8月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	児発15人 放デイ39人	(回答者数)	児発24人 放デイ22人
○従業者評価実施期間	令和8年8月1日		～	令和8年8月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数)	6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年9月23日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援・ペア支援・小集団支援等をそれぞれのお子様の特性や、保護者の要望に合わせて、適切な個別支援計画を組み立てた支援の実施。	・指導員間の情報共有 ・適切な教材・教員の選定 ・学習計画の目標立て(何をどの程度実施し、達成基準の明確化) ・グループ支援であっても児童が3人以上であれば指導員を2人以上配置	・年長児の就学に向けた教材の充実 ・小学1～3年生程度の国語、算数教材の充実 ・指導員の支援教材の習熟と学習教材の周知 ・詳細な支援記録の作成と、情報共有をよりスムーズに行うための職員間の人間関係の構築
2	毎時間の支援の構造化と支援内容の繰り返しや定着を通じた自己肯定感を高める環境づくり	・繰り返しを要する課題を、指導員の補助や助言を受けながら取り組める環境 ・「ちょっと頑張る」の本児が取り組める目標設定 ・「取り組んだこと」に対してその場で評価ができる場作り ・個別や少人数による、静かに落ち着いて取り組む事の出来る環境設定	・個別支援計画の「支援目標」及び「専門支援目標」の職員間の認識、認知の共有。 ・担当指導員による児童の取り組みに対する差の是正。 ・「指導員による対応の差」を小さくするための報告、連絡、相談、共有が忌憚なくできるようにするための環境づくり。指導員同士で気軽に話し合える職場環境の構築
3	毎時間の支援を保護者がモニタリングできることや、支援後のFB(フィードバック)を通じた、きめ細かい報告体制や、保護者からの相談に対して、その場でサポートできる環境づくり	・静かな環境で保護者が、子どもの支援を観察できる場の提供 ・保護者との定期的な面談を通じて、思ったことや感じたことを話し合える信頼関係の構築 ・必要に応じて、幼稚園、保育園、小学校等との関係機関の連携を行う	・FB時における指導員の支援の様子についての報告技術の向上。 ・各種関係機関の連携、調整等の機会の充実。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流機会の充実	就学説明会や、ペア支援、グループ活動等によって、保護者同士が関わる機会や、場は作ってはいるが、個々の対応となりがちな部分が多い。 事業所の特性上、1回1時間の個別での支援形態を主としているため、保護者同士が交流する場の設定や、時間帯の調整が難しい。 保護者によっては「我が子の支援」を望むのであって、保護者同士の交流を求めている人も多い。	例年、お子様向けに行っているイベントを開催しているが、「保護者向けのイベント」を企画、実施することで、改めて「保護者同士の交流」がどの程度の必要があるか、また保護者の意見や感想等を募ることで今後の方向性を検討したい。
2	学習教材の適切な選定と実施	小学生以降の支援は、保護者のニーズも「学習の遅れ」に対してのものが多くなる。そのため、お子様が「今、何に苦手や躓きを感じているのか」を探り、必要な支援教材を精査することや、何時間程度取り組むべきかの判断が難しい。	1回あたりの学習時間が限られているため、お子様の「苦手さ」に対する職員間の密な共有と、認識の一致。 「何を」「どの程度の期間」行うのか、取り組む教材や、期間を設定し、方向性を立てて取り組むことで支援の解像度を高めていく。
3			